

符号化通信システムの開発

符号伝送による無線指令の効率化

1 音声通信から符号伝送へ

電力の安定供給とお客様サービスを行っている営業所では、移動局に対する無線指令で業務を行う場合が多く、襲雷時等には通信のふくそうが深刻な問題になっている。

その対策としてデータ通信技術を取り入れ、従来は音声で行っていた作業指示などの定型的通信を符号化してデータ伝送し、移動局のプリンタへ打ち出して通信時間を短縮するほか、非常時には通信規制をかけ、通信ふくそうの軽減を図るシステムである。

2 システムの機能

(1) 伝票伝送

基地局から移動局へ作業伝票をデー

移動無線車（移動局）に対する無線指令は音声通信で行っている。移動局の増加に伴い、無線基地局の通信時間が増加して通信のふくそうが問題になっているため、定型的通信を符号化して移動局へデータ伝送し、お客様対応の迅速化を図る通信システムを開発した。このシステムの実証試験を62年7月から一宮営業所の配電無線で行っている。

タ伝送し、移動局のプリンタへ伝票として出力する。

(2) 選択呼出

基地局から特定の移動局をボタン操作で指定呼び出しする。

(3) 通信規制

移動局の勝手な送信を規制する。

(4) 車両状態監視

移動局の状態（出勤中、現場作業中、行先地域等）を基地局のCRTに表示する。

3 無線の効率運用に効果

一宮営業所の配電無線基地局および移動局41台に符号化通信装置を設置して62年7月から試験運用を開始した。

(1) 伝票伝送によって移動局側はメモ

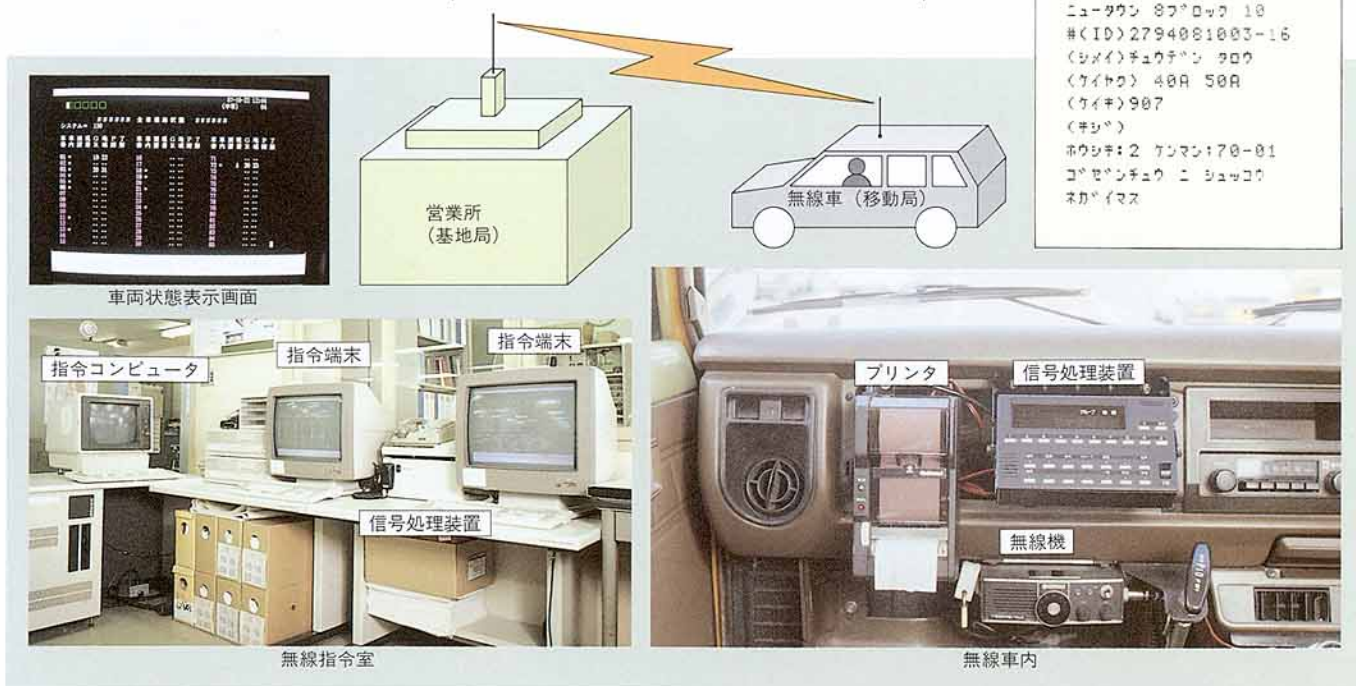
が不要になり、負担が軽減した。

(2) 移動局の状態が常に営業所で確実に把握できるようになった。

4 63年度から本格導入予定

実証試験を行っている一宮営業所のシステムをベースにしてオンラインシステムとのリンクによる伝票データ入力の自動化等、操作のしやすさを重点に改良を加え、63年度から順次、全営業所へ拡大していく予定である。

（総合技術研究所 情報制御研究室）



第1図 基地局から移動局へ伝票の伝送